

豊かさと幸せに 挑み続ける 三ガク都

- 岳 自然豊かな環境に感謝し
- 楽 文化・芸術を楽しみ
- 学 共に生涯学び続ける



松本市総合計画（基本構想2030・第11次基本計画）

松本市総合計画

基本構想 2030・第11次基本計画



6 重点戦略

ゼロカーボン

～2050 ゼロカーボンシティを目指して～

近年、世界各地で記録的な高温や大雨、大規模な森林火災、干ばつなど、地球温暖化による異常気象が頻発しています。これらの異常気象は、今や気候危機と言われています。

2015年、日本を含む国と地域が署名し、採択された「パリ協定」では、世界的な平均気温の上昇を、産業革命前と比べ1.5℃に抑えるよう努力することとしており、また、そのためには、二酸化炭素排出量を2050年に実質ゼロにすることが必要であるとされています。

松本市は、日照時間が長く、森林資源やそこから生まれる水資源、多くの温泉など、豊かな自然が存在します。わたしたちは、これらを活用した脱炭素社会を実現することにより、SDGsが掲げる「誰一人取り残さない」持続的な社会を構築し、次世代に受け継ぐ責務を負っています。

松本市は、2020年12月、気候非常事態を宣言するとともに、2050年までに二酸化炭素排出量ゼロ（ゼロカーボンシティ）を目指すことを表明し、市民・事業者・行政が危機意識を共有し、連携して次の取組みを行うことを掲げました。

これらの取組みを、まちづくりの大原則として位置付け、あらゆる分野でゼロカーボンシティ実現に向けた取組みを強化します。

- **豊富な自然資源が生み出す再生可能エネルギーを最大限活用した、エネルギーの地産地消**
 - ・再生可能エネルギーの導入・普及
 - ・再生可能エネルギーを最大限に活用できる環境の整備 など
- **3R（リデュース、リユース、リサイクル）の推進による、省資源、省エネルギー化の徹底**
 - ・ごみ減量の取組強化（家庭、事業所、市役所）
 - ・徹底した省エネルギーの推進 など
- **環境に配慮したクルマへの転換を図るとともに、公共交通の利用及び自転車の活用を推進**
 - ・公共交通の充実、自転車先進都市の実現
 - ・EV、FCVの普及促進、グリーンスローモビリティ[※]の活用 など
- **市域の8割の面積を占める森林の整備や緑化を強化し、温室効果ガスの吸収源対策を推進**
 - ・森林整備、森林資源活用
 - ・まちなか緑化、公園整備
 - ・カーボンフットプリント[※]を意識した各種啓発活動 など
- **気候危機に適應できる、レジリエント（強靱）な地域づくり**
 - ・危機管理体制の強化
 - ・気候変動に適應した持続可能な地域基盤の構築 など

DX・デジタル化

～デジタルシティ・松本～

デジタル化は、今や水道や電気、道路などと同様の公共的なインフラ、生活の基盤です。この認識は、新型コロナウイルスの感染拡大を契機として、世界に後れを取っているという事実とともに日本全体に広く浸透しました。

また、距離や時間を超越するデジタルの力は、大都市よりもむしろ地方都市でこそ活かしていくべきであり、最先端のデジタル技術をできるだけ早く、上手に取り入れることが、将来の松本市の発展に大きく影響します。

こうした考えに立ち、松本市は、国が進めるスーパーシティ構想への応募に当たり、デジタル化の基本的な考え方として「DXを目指す松本のまち」をとりまとめました。

第11次基本計画では、この基本的な考え方に基づき、デジタル化を、市民の生活を豊かにし、安全・安心で快適な暮らしを実現するためのエンジンと捉え、全ての施策において強力に取組みを進め、地域が持つポテンシャル（三ガク都）に最先端のテクノロジーが融合した「デジタルシティ・松本」の実現に挑みます。

- **世界水準の城下町まつもと・アルプスリゾートへの挑戦**
 - ・最先端のデジタル技術を駆使した安全・安心で快適・便利な「スマート・リゾート」
 - ・世界を視野に入れたワーケーション環境の整備と推進
 - ・仮想空間と現実空間が融合する「デジタル・ツイン[※]」で相乗効果を発揮した魅力的なまちづくり など
- **楽しく稼ぐクリエイティブシティへの挑戦**
 - ・「サザンガク」や「松本ヘルス・ラボ」などを拠点に、デジタル技術を駆使した新しいビジネスの創出
 - ・交通、物流、農林業などを始めとする、既存産業のスマート化やシェアリングエコノミー[※]
 - ・交通やキャッシュレス決済など異なる複数のサービス連携での回遊性向上や、xR[※]などの先端技術を活用した体験価値の向上で、まちの賑わいを創出 など
- **可能性を広げる新しい学びへの挑戦**
 - ・一人ひとりに適した様々な手法を用いた教育機会の提供や、校外、ひいては世界ともつながるデジタル技術を応用した、可能性を広げる新しい学びスタイルの実践
 - ・スポーツや文化芸術活動とデジタル技術の融合、誰もが松本の文化・歴史に触れられる、学べるデジタルコンテンツの充実
 - ・若い世代も含めた多様な世代が、時間と空間の制約を受けずに、いつでも、どこからでも学びに参加できる生涯学習の場づくり など



● デジタル弱者への配慮とデジタル人材の育成

- ・デジタル機器に慣れていない方、なじめない方もデジタル化の恩恵を享受
- ・障がいのある方などに、デジタルを活用した社会参加の機会を創出
- ・デジタル化を進めていくに当たり必須となる、デジタル人材の育成 など

● デジタル市役所の実現

- ・インターネットを活用して24時間365日手続きができる行政手続きのオンライン化と、市民に必要な情報を届けるPUSH型行政への挑戦など住民サービスのデジタル化
- ・新しい働き方やスタイルに合った、テレワークの常態化。また、そのために必要なICT環境や制度面の整備
- ・エビデンス（証拠）に基づく政策の推進や市勢情報の見える化につながるビッグデータ・行政データの活用 など

7 各論

▶ 用語

- ・ ゼロカーボン

グリーンスローモビリティ

時速20km未満で公道を走ることができる電動車を活用した小さな移動サービスで、その車両も含めた総称です。

カーボンフットプリント

商品やサービスにおいて、原材料調達から廃棄・リサイクルまでの温室効果ガス排出量を表示する仕組みです。

- ・ DX・デジタル化

デジタル・ツイン

IoTなどで集めた現実（リアル）空間の情報を元に仮想（サイバー）空間において現実空間を再現し、予測・検証する」技術です。現実世界の環境を仮想空間にコピーする鏡の世界のようなイメージであり、「デジタルの双子」の意味を込めてデジタル・ツインと呼ばれます。

シェアリングエコノミー

モノや場所、スキルなどをデジタル化により必要とする人に提供したり共有したりすることにより、効率化する新しい経済の動きです。

XR

「仮想世界と現実世界を融合し、新たな体験をつくり出す」技術の総称です。VR（仮想現実）、AR（拡張現実）をはじめ、MR（複合現実）、SR（代替現実）などの技術で構成されます。

基本施策

6-2

ものづくり産業の活性化

目標
(目指す姿)

ものづくり産業の持続的発展の実現に向け、松本市の特性を活かした新たな活力の創造により、高い競争優位性を持った地域を目指します。

現状と課題

- ・松本市の製造業は様々な分野にバランスの取れた安定的な構造である反面、収益性の低い分野が多いことから、既存産業の生産性向上・高付加価値化や、新たな成長産業の育成が急務です。
- ・人手不足や今後の労働人口の減少、デジタル化の急速な進展等を踏まえ、機械化や自動化、ICTの導入等を進める必要があります。
- ・こうした取組みに向けて、既存企業の支援に加え、先進企業の誘致等による新たな活力の創出を図ることも求められています。
- ・伝統産業分野の多くは、需要の低迷等により危機的状況にあるため、今後は、潜在的需要の掘起こしや、現代に適応した業態への転換により存続を図ることが必要です。

SDGs 関連するゴール ▶▶▶



重点戦略

ゼロカーボン

- ・中小企業における再生可能エネルギーの導入、省エネルギー化
- ・普及、啓発活動

DX

- ・ICTの活用による生産性向上、新産業の創出
- ・ICT人材の育成、確保
- ・ICT拠点（サザンガク）の強化

成果指標

指標	現状値	目標値（R7）
製造品出荷額等 <small>【地方創生】</small>	5,810億円（H30）	5,966億円
製造業等活性化支援事業助成金活用件数	3件	4件
製造業等販路拡大支援事業補助金活用件数	30件	30件
サザンガクの支援・連携事業者数 <small>【地方創生】</small>	60件	120件

施策の方向性

・重点産業の推進

松本市の特性を活かした成長産業分野として、食料品製造業や高度な産業用機械分野を位置付け、農商工連携や産学官連携、産産連携等により重点的に推進します。

・ものづくり産業の基盤強化と成長促進

中小製造業の経営基盤強化や高付加価値化、新製品・新技術の開発、国内外における販路拡大の取組みを支援します。特に地域の中核となりうる企業を重点的に後押しし、全体の成長に結び付けます。

・ICTの活用による生産性向上と新たな活力の創出

ICTの活用による既存企業の生産性向上や新産業の創出、人材の育成や起業・創業支援、新しい働き方の浸透、雇用の創出を図ります。

・企業誘致の促進

受け皿の確保や支援策の充実により、本社機能や研究開発部門、工場等の誘致を推進します。

・伝統技術の伝承と地場産業の振興

インターネット販売の活用等による新たな販路の拡大や現代のニーズにマッチした商品開発に対する支援等により産業基盤の確立を図り、後継者の確保などを推進します。

主な事業

- ・工業ビジョン推進事業
- ・産業創発支援事業
- ・ICT活用地域産業振興事業
- ・ものづくり伝承・PR事業

▶ 関連計画

松本市工業ビジョン

基本施策 6-3

雇用対策と働き方改革の推進

目標 (目指す姿)

地域の实情に即した雇用対策に取り組むとともに、働き方改革を推進し、安心して働ける環境の実現を目指します。

現状と課題

- ・ 中小企業の7割以上が人手不足を感じており、労働力確保に向けて、企業と求職者のニーズのマッチングを図ることが必要です。特に、地域産業の将来を担う若年者の人材確保・育成や女性の就労支援などが求められています。
- ・ 全国の60歳以上を対象にした調査では、約6割の人が70歳以上まで働きたいと回答しており、人材のマッチングや長く働ける環境づくりが必要です。
- ・ 社会的背景から急速に進む働き方改革は、求職者の企業選択ポイントの一つであり、市内の中小企業の取組みが遅滞なく推進できるよう支援していくことが必要です。また、労働人口及び事業所数が減少していく中での中小企業の福利厚生水準を維持することが課題です。
- ・ 労働相談は多様化してきており、特に労使間トラブルやハラスメントといった相談は、当事者間での解決は難しく、専門家を介して解決に至るケースが増えています。

SDGs 関連するゴール ▶▶▶



重点戦略

ゼロカーボン

- ・ テレワーク・テレビ会議等の推進による人の移動抑制
- ・ 普及、啓発活動

DX

- ・ 高齢者等、デジタル弱者への支援
- ・ オンライン相談の充実
- ・ テレワーク、ワーケーションの普及、推進

▶ 用語

生涯現役促進地域連携事業 高齢者の雇用・就業促進に向けた地域の取組みを支援するため国が平成28年から実施している事業で、地域の特性などを踏まえた事業構想を国が選定し、事業委託を行います。松本市では平成31年4月に「松本市生涯現役促進協議会」を設立し、国からの事業委託を受け、令和元年10月から高齢者の雇用に関するニーズ調査、相談窓口の開設、各種セミナー等の事業を実施しています。

成果指標

指標	現状値	目標値 (R7)
生涯現役促進地域連携事業*による高齢求職者の就業者数 (累計) <small>地方創生</small>	22人	110人
市内中小企業労働者の(一財)松本市勤労者共済会加入会員数	7,967人	8,200人
健康づくりチャレンジ宣言エントリー企業数(累計)	102企業	200企業

施策の方向性

・ 雇用の促進、労働力確保

長野労働局との雇用対策協定に基づき、雇用の促進に努めるとともに、地域の实情に合わせた人材育成や生涯現役促進地域連携事業による高齢者の就業支援等、労働力の確保に向けた取組みを進めます。また、関係団体と連携し、若年層の地元企業への就職や定着、産業に必要な人材の確保など、総合的に人材育成を支援します。

・ 働き方改革の普及促進

市内中小企業の働き方改革の状況を把握し、課題を捉え企業の实情に合わせて改革を推進します。また、働き方改革と併せて、従業員の健康管理を経営的な視点で考え、戦略的に実践する健康経営について普及促進に努めます。

・ 働きやすい職場づくりの推進

テレワークや育児・子育てに応じた勤務など、多様な働き方を推進するとともに、中小企業での働きやすい職場づくりや福利厚生を充実させるため、勤労者福祉に関する取組みを関係団体と連携して推進します。

・ 相談体制の整備

複雑化する社会や多様化する個々の価値観により専門的な労働相談が増加傾向にあることから、ニーズを捉えた相談体制を整えます。

主な事業

- ・ 雇用対策・雇用創出推進事業
- ・ 生涯現役促進地域連携事業
- ・ 勤労者福祉事業
- ・ 労働相談事業
- ・ 働き方改革推進事業
- ・ 労働関係情報提供事業

▶ 関連計画

松本地域高齢者就業機会確保計画
松本市工業ビジョン
松本市男女共同参画計画